

まだ8月ですが、今日から2学期が始まりました。

8月15日は終戦記念日でした。今年、日本は敗戦から75年目を迎えました。毎年7月、8月になると、戦争を扱った映画やドラマが放送されますが、この夏は「太陽の子」が話題になりました。他にも戦争を題材にした映画やドラマは「この世界の片隅に」「ほたるの墓」「黒い雨」「永遠の0」などたくさんあります。これらの作品は、戦局が悪化して、食料や物資が不足し、空襲警報が頻繁に鳴り響き、神風特攻隊が軍艦に体当たりし、原子爆弾を落とされる、敗戦間際の姿を描いています。どの作品も戦争の悲惨さを訴え平和の大切さを痛感させますが、どちらかと言えば、被害者としての視点から描かれています。

しかし、第2次世界大戦で、日本は一方的な被害者だったわけではありません。皆さんの世界史の教科書には、こう書いてあります。「1930年代末から「創氏改名」など同化政策が強められた朝鮮では、開戦後日本の支配が過酷さを増し、労働力不足を補うために、労働者が日本本土へ強制的に連行され、戦争末期には徴兵制も適用された。東南アジアの占領地では、当初、日本を欧米諸国の植民地支配からの解放者として迎えたところもあった。しかし、日本の占領目的は資源収奪とそれに必要な治安確保であり、軍政のもとで、日本語教育や神社参拝の強制など、現地の歴史や文化を無視した政策が行われた。さらに、シンガポールやマレー半島、フィリピンでは住民への残虐行為や捕虜を含む強制労働が多発したため、住民の激しい反感を呼び、日本軍は各地で抵抗運動に直面した。」

教科書に書いてあるように、日本は戦争の加害者でもありました。この戦争が朝鮮半島を南北に分ける原因にもなりましたし、現在の日本と韓国、中国、北朝鮮との関係などにも大きく影響しています。

戦争の被害者であり、加害者でもあった日本は今、どちらの立場でも国際社会に対して十分な働きかけをしていません。

被害者としては、日本は唯一の被爆国ですが、核兵器禁止条約に批准していません。今年も被爆者や広島、長崎の市長が批准を求め、ニュージーランドのアンダーソン首相が「核兵器ゼロが広島と長崎の犠牲者への償いになる唯一のこと」と訴えましたが、それに答えることはありませんでした。原爆の被害を受けた国として、二度とこのような被害者を出さないために国際社会に対して明確な働きかけをしているとは言えません。

加害者としてはどうでしょう。第2次世界大戦で、ユダヤ人600万人を虐殺したナチスドイツは最悪の加害者でありました。ドイツでは加害者として行った残虐な行為を、学校でしっかりと教えています。ナチスだけでなく一般のドイツ人もホロコーストに協力したこと、大量虐殺を知っていながら何もしなかったことなど、ドイツ人の責任について問い続ける教育をしています。ドイツの町中にはナチスによる犯罪の現場が追悼施設としてたくさん残され、日々人々に戦争の加害者としての責任を訴えています。現在のドイツは戦争加害者としての深い反省の上に立っています。例えば、戦時中たくさんの人々を迫害し、多くの難民を出したという反省に立ち、憲法に政治的迫害を受けた難民を保護する義務を規定し、2018年時点でドイツは110万人の難民を受け入れています。日本の難民受け入れは42人です。

日本が第2次世界大戦の加害者として反省することが、日本人の自尊感情を損ねるといふ人がいます。日本はいつまで反省と謝罪をし続けなければならないのか、もう未来だけ見ればいいではないかという人がいます。

例えば、過去に自分をいじめた人で「もう過ぎたことだ、これからは未来だけを見て仲良くしよう。」と言う人と、「昔いじめたことを忘れていない。申し訳なかった。これからは二度とそんなことをしないよう反省しているから、仲良くしてください。」と言う人、どちらを信頼できますか。

日本という国に誇りを持つと言うことは、過去の過ちをなかつたことにする事ではありません。過去の過ちを認め、しっかりと向きあい、その上で未来に向かって立ち上がったとき、真の誇りは生まれます。

国際社会から尊敬や信頼を得るためには、被害者であったこと、加害者であったことをしっかりと認め、歴史から学び、二度と戦争を繰り返さないためにはどうすればよいかを考え続け、行動を起こすことです。

みなさんに戦争責任はありません。しかし、戦争を繰り返さない責任はあります。歴史をしっかりと学び、歴史に向き合い、国際社会から尊敬と信頼を得られる日本を作っていってほしいと思います。